



# OUIK Newsletter

2017年1月号

## 2017 年年頭によせて

国連大学サステナビリティ高等研究所  
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット  
(UNU-IAS OUIK)  
所長 渡辺綱男

### 新年の挨拶

新春のお慶びを申し上げます。昨年 2016 年は OUIK にとって皆様との「協創」の年であり、大きな飛躍の年となりました。

OUIK は、2015 年から人間の営みと自然の相互作用を一体的に捉える生物文化多様性という考え方を取り入れ、能登半島や環白山地域の里山里海の持続性、金沢の都市文化と自然のつながりを考えてきました。

その成果は、金沢市が 2015 年度に策定した「金沢版生物多様性戦略」にも反映され、同市の文化と自然を関連づけて一体的に保全活用していくという方向性が打ち出されました。同戦略には市民が生態系管理に参加する市民ウォッチャー制度、自然と文化を学ぶエコツアーなどのキーププロジェクトの実施が謳われています。OUIK は、これを受けて、2016 年を戦略策定から実施に結び付ける年と位置づけ、金沢市との協働を進めて参りました。また、9 月にスウェーデン、エステルズンド市で開催された、ユネスコ創造都市ネットワーク会議年次総会の関連学術会議にて、生物文化多様性圏をテーマとしたセッションを主催し、金沢市の取組を生物多様性、文化多様性、多様な主体の参画という視点から共同研究者らとともに国際的に発信しました。



白山ユネスコエコパークは、移行地域の拡張登録が 2016 年 3 月にユネスコ MAB 計画国際調整理事会で正式に承認され、持続可能な地域づくりを柱とする活動に注目が集まっています（MAB 計画とは、人間と生物圏計画、Man and the Biosphere Programme のこと）。5 月にはユネスコの MAB ネットワーキング担当者を招聘し、拡張登録記念シンポジウムを白山市にて、ブックレット刊行記念シンポジウムを国連大学本部にて開催しました。また、ユネスコ活動費補助金を活用し、7 月には、韓国、カザフスタン、インドネシアの MAB 担当者を国連大学に、10 月にはアジア地域 6 ヶ国のユネスコエコパーク実務者を白山ユネスコエコパークにそれぞれ招聘し、国内外の取組を参照しながら持続可能な地域づくりと多様な主体の参画について議論を進めるプラットフォーム形成に努めました。

世界農業遺産「能登の里山里海」は、2011 年の認定から 5 年が経過し、里山里海の保全と活用をさらに進めていくためのアクションプランの見直しが実施され、OUIK も改定作業に携わりました。5 月に新たなアクションプランを広く地元の方々に周知することも兼ね、世界農業遺産認定 5 周年記念シンポジウムを開催しました。また、昨年からの能登地域の 9 市町と協働で進めている里海シリーズ講座もおかげさまで回を重ねることができ、2016 年は第 4 回を羽咋市、第 5 回を能登町でそれぞれ開催するに至りました。各回ともに、活動を担う地域の方々と地域外の専門家の目を通して、里海資源の保全活用と将来的な可能性について議論を深めることができました。昨年度の成果を取りまとめ、10 月には里海ムーブメントのブックレットを刊行しました。

こうした各地での、皆様との協働は10月に開催された「第1回アジア生物文化多様性国際会議」という形で大きく結実しました。この国際会議は、ユネスコ、生物多様性条約事務局、石川県、七尾市、国連大学が共催し、国内外40ヶ国の実務者・専門家、高校生や大学生のユース世代を含む約500人が参加しました。その成果として、アジア地域の豊かな生物多様性と文化のつながりの重要性を再確認し、次世代に受け継いでいくための提言を「石川宣言」としてまとめることができました。開催にあたりご協力いただいた地域の皆様には改めて感謝申し上げます。

そして、この「石川宣言」をメキシコ・カンクンで12月に開催された生物多様性条約第13回締約国会議にて報告し、石川ですでに取り組まれている世界農業遺産やユネスコエコパークなどの国際認証制度を活用した現場レベルの教育交流活動の取組を紹介したうえで、生物文化多様性を守り活かし続ける地域の人々と国際社会との学び合いを今後より一層進展させていくことを国際社会に向けて提案しました。

2017年は、「石川宣言」に謳われた理念や考え方を皆様とともに形あるものにするべく、OUIKは引き続き研究機関として地域の活動を支え、国際社会とのゲートウェイとして石川の豊かな自然と文化を守り、活かし、次世代につなげる活動を進めて参ります。

## 2016年のハイライト

### ○第1回アジア生物文化多様性国際会議

七尾市、2016年10月27-29日

2014年にイタリアで生物文化多様性に関する初のヨーロッパ会議が開催されました。それを受け、OUIKでは、2015年より石川県と連携して、生物文化多様性共同プログラムを進めるユネスコと生物多様性条約事務局との調整を進め、アジアで初めてとなる「第1回アジア生物文化多様性国際会議」の開催準備を進めてきました。

国際会議は10月27日-29日の日程で、七尾市にて開催され、国内外40ヶ国の実務者・専門家、高校生や大学生のユース世代を含む約500人の参加者を迎え入れ、多様な意見を交換する場として活用されました。27日には、3つの分科会、ポスターセッション、専門家会合を通じて、アジアだけでなく、世界の生物文化多様性に関わる実践活動、地域政策が共有されました。続く28日には、ユース会合や石川県内の実践活動の報告も行なわれ、幅広い視点から生物文化多様性の重要性と今後の行動のあり方が議論されました。

これらの一連の討議結果は、「生物文化多様性に関する石川宣言2016」として成果文書としてまとめられ、28日のクロージングセッションにて、生物多様性条約事務局長 Braulio Ferreira de Souza Dias 氏（以下、Dias 事務局長）、ユネスコ事務局長補（自然科学担当） Flavia Schlegel 氏、谷本 正憲 石川県知事、不嶋 豊和 七尾市長、武内和彦国連大学 IAS 上級客員教授、渡辺綱男 OUIK 所長の署名をもち、会場からの拍手にて採択されました。



国際会議の第2分科会



ユース会合（県立泉丘高校、県立七尾高校、タイの高校生、ロシアの大学生などが参加）



国際会議本会議にてワークショップの成果を報告する高校生



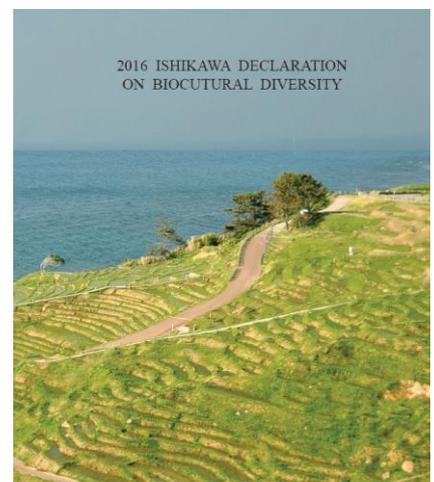
署名された石川宣言を手に

## ○生物文化多様性に関する石川宣言 2016

第1回アジア生物文化多様性国際会議の成果である「生物文化多様性に関する石川宣言 2016」を国内外に広く発信するためのパンフレットを作成しました。

同宣言は、13項の宣言文と付属書で構成されています。宣言文は、生物文化多様性の価値を確認するとともに、国際的な連携や地域社会がもつ役割の重要性などを謳っています。

また付属書は、「教育、能力開発、知識の共有」、「伝統的知識」、「信仰と文化的価値観」、「経済と地域の生業」、「ガバナンスと制度」、「パートナーシップとネットワーク」、「土地利用と管理」の分野にまたがる29の行動方針をまとめています。



Linking Biological and Cultural Diversity  
UNESCO-SCBD Programme



「生物文化多様性に関する石川宣言 2016」の紹介パンフレット（英語版）

## ○生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）

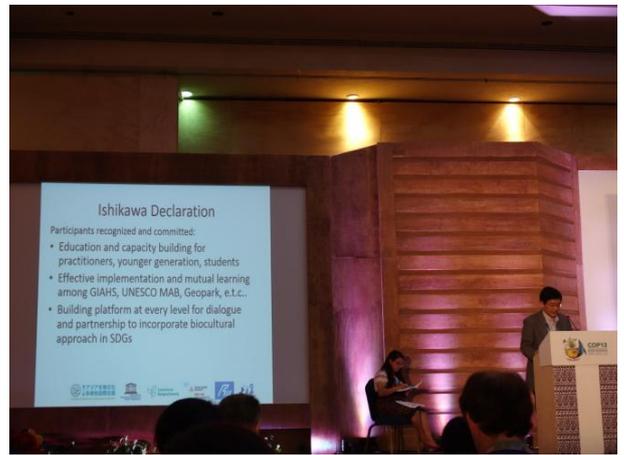
メキシコ・カンクン市、2016年12月4-17日

国連大学は、メキシコ・カンクンにて開催された生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）（12月4-17日）において、第1回アジア生物文化多様性国際会議の成果として「石川宣言」について発信を行いました。

まず、12月5日に開催された本会議第1作業部会に武内和彦国連大学サステナビリティ高等研究所上級客員教授が国連大学学長特別代理として出席した際に、約800人の聴衆に向けて、第1回アジア生物文化多様性国際会議とその成果について紹介しました。石川県が世界農業遺産やユネスコエコパークなどの国際認証制度間の相乗効果を生み出すフィールドとなっていること、さらにそうした動きを通じて、生物文化多様性に関わる地域資源を活用し、地域振興と愛知目標の双方に貢献できることをアピールしました。なお、このスピーチ全文は同条約事務局のウェブサイトに掲載されています。

（参照：<https://www.cbd.int/conferences/2016/cop-13-hls/documents>）

さらに、10月9-11日の3日間に渡って開催された先住民に関するフォーラム「Summit Muchtanbal on Indigenous Experience: Traditional Knowledge and Biological and Cultural Diversity」（在来の経験に関するムチュタンバルサミット：伝統的知識と生物文化多様性）のハイレベルセッションでは、渡辺綱男 OUIK 所長から同国際会議の概要と石川宣言について紹介しました。同宣言のうち、特に生物文化多様性を保全、利活用する関係者の能力開発の重要性、世界農業遺産など国際認証制度の効率的な実施の重要性、持続可能な開発に生物文化多様性を主流化させていくため、対話とパートナーシップを生むプラットフォーム機能の重要性を強調し、



ムチュタンバルサミットにて「石川宣言」を発信する渡辺綱男 OUIK 所長

2020年までの愛知目標達成に向けて、OUIK と石川県が連携協力し、世界農業遺産やユネスコエコパークなどの効率的な実施を進めること、石川と国内外他地域の学び合いを促進させることを報告しました。

事例紹介セッションでは、永井三岐子 OUIK 事務局長より、「第1回アジア生物文化多様性国際会議の成果としての、体験型学びと研修ツーリズム」として、石川県がこれまで行ってきた世界農業遺産国際協力プログラムや、2016年度に OUIK と白山ユネスコエコパーク協議会が同ユネスコエコパーク内で実施したアジア地域のユネスコエコパーク実務者研修事業について概要を報告しました。また、能登地域の人々による子供向け環境学習イベントを「Satoyama Tea Ceremony」として紹介しました。石川には地域発の先進事例が多くあり、それらを国際的な教育交流と組み合わせること取組を進めていくこと、加えて、石川が生物文化多様性に関する生きた学びの場となり、そのために OUIK が研究機関として結節点として働き、石川とアジアの両者の学びをもたらすしくみづくりに貢献していくことが提案されました。

なお、同フォーラムの席で、生物多様性条約事務局担当者より、第1回アジア生物文化多様性国際会議を受けて、2018年に同様な国際会議を北米で開催することがアメリカ自然史博物館を中心に検討されているとの紹介がなされました。

最後に、閉会レセプションでは Dias 事務局長に、石川県職員と共に国際会議参加の御礼を申し上げ、「石川宣言」の冊子をお渡ししました。Dias 事務局長は、石川県には自然と共生する伝統文化が今でも根付いていることに非常に感銘を受けたと述べられ、事務局長退任後（2017年2月に任期終了予定）には家族を連れて再訪したいとのコメントを頂きました。それを裏付けるように、同レセプションのスペイン語挨拶において Dias 事務局長は「Ishikawa」と何度も言及されていました。



COP13の会場にて：「石川宣言」を手にする生物多様性条約事務局長 Braulio Ferreira de Souza Dias 氏（右から3人目）

### ○世界農業遺産「能登の里山里海」5周年記念シンポジウム

七尾市、2016年5月23日

能登の里山里海の世界農業遺産認定から5年が経過したことを受け、これまでの活動を振り返り、また新たに見直されたアクションプランをもとに今後の方向性を参加者の方々と議論しました。

竹中 博康 石川県副知事、柏原 卓司 農林水産省北陸農政局次長による来賓挨拶の後、武内和彦国連大学上級副学長（当時）による基調講演が行われ、2011年の認定までの経緯、世界農業遺産を活かした地域づくりの今後の展望が述べられました。



記念シンポジウムでのパネルディスカッション

新アクションプランでは、持続可能な農林漁業の生業、伝統技術文化の継承、生物多様性や文化景観の保全の3つが大きな目標として謳われており、その実現のためには、多くの実践者の関わりが必要となります。記念シンポジウムのパネルディスカッションでは、農業、観光、まちづくりなど様々な活動を展開するパネリストらにより、今後さらに地域が持続的に発展するための議論が行なわれました。

### ○里海シリーズ講座（第4回、第5回）

2015年度より始まった能登の里海シリーズ講座の第4回、第5回をそれぞれ羽咋市、能登町との共催で開催しました。

■第4回 羽咋の里海ブルーツーリズム：里海的环境保全と生業を学ぶ体験型観光の展開（7月9日、羽咋市）

里海ブルーツーリズムと題して、瀬戸内海のエコツーリズムを参考事例に千里浜の保全活動や天然岩ガキなどの自然資源の活用を通じた羽咋市独自の体験型観光のあり方を議論しました。



第4回里海シリーズ講座でのパネルディスカッション

■第5回 里山と里海をつなぐ仲間～能登地域の暮らしを支える里川～（9月17日、能登町）

里山と里海をつなぐ地域の川「里川」の役割に光を当て、町野川が育む生物多様性、そこの鮎からつくられる「ひねずし」が、秋の祭り料理となっていることなどが紹介され、里川が地域環境に果たす役割とその恵みを大切にしてきた地域の生活や生業とのつながりが確認されました。

### ○ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）学術会議

スウェーデン・エステルズンド市、2016年9月12日

UCCN 年次総会が9月スウェーデン・エステルズンド市で開催されました。2015年に金沢で同年次総会が開催された折、国連大学 OUIK が初めて同ネットワーク総会に付随する学術シンポジウムを主催しました。それを踏襲する形でミッドスウェーデン大学が、持続可能な開発と創造都市に関する学術会議を開催しました。OUIK は「いしかわ金沢生物文化多様性圏－多様なセクターと学術ネットワークによる地域プ

ラットフォームで創造性を高める」と題したセッションを主催し、共同研究者とともに、金沢をフィールドにした学術活動の成果をふまえた発表を行いました。



セッションを終えて：

(左から) 飯田義彦 (OUIK)、敷田麻美氏 (北陸先端科学技術大学)、佐々木雅幸氏 (同志社大学)、ミッドスウェーデン大学関係者、永井三岐子 (OUIK)、内田奈芳美氏 (埼玉大学)

## ○白山ユネスコエコパークとの連携

環白山地域は、1980年にユネスコエコパークの登録を受け、生態系を保護する核心地域、その周辺に学術研究や教育活動を担う緩衝地域が設けられました。2014年に地域が主体となった白山ユネスコエコパーク協議会が設立され、持続可能な社会経済活動を進める移行地域の拡張登録を2015年に申請しました。2016年3月18日-19日にペルー・リマにて開催された、第28回MAB計画国際調整理事会で拡張登録が承認され、今後多様な主体の参画による持続可能な地域づくりへの展開が期待されます。OUIKは、国際的なネットワークの形成などを通じて、協議会活動を支援してきました。

その一環として、地域の様々なステークホルダーの方々に協力をいただき、OUIK生物文化多様性シリーズ#2「白山ユネスコエコパークー人と自然が紡ぐ地域の未来へ」を刊行しました。これにより、白山ユネスコエコパークの特徴と生物文化多様性に関わる活動の概要が理解でき、国際的な教育交流活動にも使用可能な教材として活用されることを目指しています。

ブックレットの刊行に合わせて、国連大学本部にて国際シンポジウム「世界ネットワークを通じた学びあいと生物文化多様性の保全ーユネスコエコパークの事例から考えるー」を5月11日に開催しました。ユネスコ本部のMABネットワークセクションチーフであるNoëline Raondry Rakotoarisoa氏を招聘し、生物文化多様性の保全と継承に向けた地域と世界ネットワークとの協働のあり方について議論しました。それに先立ち、同氏を迎え、白山ユネスコエコパーク各所にて保全の取組や地域資源を活用した活動



拡張登録決定後、ユネスコ関係者と日本側関係者 (写真提供：白山ユネスコエコパーク協議会)



ユネスコエコパーク事業を紹介する Noëline Raondry Rakotoarisoa 氏 (国連大学本部にて)



第4回ユネスコエコパーク世界大会の山岳ワークショップにて地域実践事例を紹介

などの視察を行い、5月10日には構成7市村長が参加した拡張登録記念シンポジウムを白山市にて共催しました。

また、第4回ユネスコエコパーク世界大会に参加し、石川県を事例にした世界農業遺産とユネスコエコパークとの相乗効果、白山ユネスコエコパークをフィールドとした山岳地域の学びあいの可能性をテーマに発表しました。

## 人材育成

### ○金沢市をフィールドに持続可能な開発目標を学ぶ

金沢市、2016年7月11-15日

2015年9月の国連総会で持続可能な開発目標が承認されたのを受け、日本国内でも実施に向けた取組みが始まっています。OUIKでは金沢大学との連携を進め、17分野からなる目標のうち、エネルギー・廃棄物処理、水、農林水産業、教育の4分野を切り口に金沢市の持続可能性を学ぶフィールドスタディを共同で実施しました。

金沢大学の留学生と国連大学アカデミックプログラム修士過程、博士過程の学生が参加し、金沢市の歴史文化的な景観、関連施設、コミュニティを視察、自身の研究テーマや自国の政策課題と比較し成果発表を行いました。



成果発表後に修了証を手にする受講生たち  
(写真提供：Aida Mammadova 氏)

### ○アジアユネスコエコパーク実務者研修の実施

東京都渋谷区 7月25日-26日

白山市を含む白山ユネスコエコパーク内各所 10月22-29日

OUIKと白山ユネスコエコパーク協議会は、平成28年度ユネスコ活動費補助金を活用した事業を協働で実施しました。7月には、新たなリマ行動計画を受けて、韓国、カザフスタン、インドネシア、日本の各国での実施の方向性を共有するとともに、日本ユネスコエコパークネットワークの各サイト代表者ととも地域社会の具体的な行動の重要性を確認しました。

10月には、アジアのユネスコエコパーク実務者を対象とした現地研修会を開催しました。ブックレットを教材としてユネスコエコパークの特長の捉え方や生物文化多様性に関わる地域情報のまとめ方の一例を提示し、アジア各地のユネスコエコパークの管理運営事例を共有しました。また、白山ユネスコエコパーク内の各所を訪れ、地域が抱える課題について議論しました。



アジアからの研修参加者及び Flavia Schlegel ユネスコ事務局長補 (後列右から4人目)

この成果は、アジア生物文化多様性国際会議の分科会ユネスコエコパークセッションにて報告され、地域の実践者同士の学び合いの重要性を発信しました。また、研修生は、自身のユネスコエコパークについてのポスター発表を行い、国際会議の参加者とともに、生物文化多様性に関する議論形成に貢献しました。

なお、白山ユネスコエコパーク内で実施された現地ワークショップには、アジア生物文化多様性国際会議に出席するために来日したユネスコ事務局長補（自然科学担当）Flavia Schlegel 氏も参加されました。

## ○世界農業遺産ラオス及びミャンマー政府関係職員研修 (GIAHS スタディツアー)

金沢市、能登地域 2016年11月13-18日

石川県は世界農業遺産国際貢献の一環として途上国から世界農業遺産の新たな認定を目指す研修員の受け入れを進めてきました。OUIK は従来より研修員教育を分担し、世界農業遺産の概念や申請にかかる技術的な講義を行ってきました。

今年度はミャンマー、ラオスから研修員3名が参加し、OUIK から制度説明と認定地域の事例紹介を行なうとともに、能登地域への視察同行、研修成果発表会でのとりまとめなどの支援を実施しました。



春欄の里にてコミュニティツーリズムの取組について話を伺う研修員（能登町）

## ○グローバルな視点からの中等教育支援

昨年は新たに高校生や大学生と接する機会を多く頂きました。アメリカの大学生と日本の大学生が高校生にリベラルアーツ（教養学）を教える小松サマースクールが3回目を迎え、2016年は、SDGs（国連持続可能な開発目標）をテーマとしてワークショップを共催しました。

泉丘高校スーパーグローバルハイスクール事業では、国連大学本部での研修や各種研修をアドバイザーとして実施支援しました。また、七尾高校では里山里海ビジネスプランコンテストやいしかわニュースーパーハイスクール事業の成果発表会の審査員として次世代の育成事業に関わりました。

このような関わりを通じ、泉丘高校と七尾高校の生徒が生物文化多様性国際会議のユース会合に参加するというつながりが生まれました。国際会議の本会議にて、次世代代表として石川の生物文化多様性をどのように継承していくかを宣言してもらうことができました。OUIK では、持続可能な地域活動のために、今後も高校生や大学生の方々との協働を積極的に進めていきたいと考えています。

## 出版物

- 『OUIK 生物文化多様性シリーズ #2 白山ユネスコエコパーク -ひとと自然が紡ぐ地域の未来へ-』（2016年5月発行）
- 『金沢版生物多様性戦略〔英語要約版〕』（2016年9月発行）
- 『OUIK 生物文化多様性シリーズ #3 能登の里海ムーブメント -海と暮らす知恵を伝えていく-』（2016年10月発行）
- 『第1回アジア生物文化多様性国際会議分科会・ポスター発表要旨集』（2016年10月発行）

## お知らせ

### ○ウェブサイト開設

OUIK では、研究活動、ネットワーク活動、人材育成活動、出版活動の成果発信や関連イベントの情報発信を進めるため、2016 年度よりウェブサイトを開設しました。

サイトのアドレス： [www.ouik.unu.edu](http://www.ouik.unu.edu)

### ○新スタッフ紹介



フアン・パストール・イヴァールス

スペインの地中海に面した港町デニア出身。スペイン・ヴァレンシア工科大学大学院修士課程終了後、デニア市役所に 6 年間勤務。その後、ヴァレンシア工科大学大学院博士課程に戻り、京都大学日本学術振興会特別研究員を経て、建築設計博士（日本庭園）を取得。その後、日本におけるインターン・非常勤実習助手を経験し、現在、OUIK で建築設計・まちづくり・景観生態の観点から調査研究活動を推進している。



久保 聡美

金沢市出身。関西外国語大学外国語学部英米語学科卒業。大学卒業後は成田空港で航空会社の地上職員として 7 年間勤務した後、東京都内の海運会社で 9 年間輸出貿易事務に携る。現在、OUIK のアドミニストレイティブ アシスタントとして事務補助を担当。

## 2016 年の活動実績

### ○2016 年 1-12 月の主要業務

#### 1 月

- 韓国、中国、日本 GIAHS ワークショップ「GIAHS と今後の課題の国際動向」（発表：ユー「世界農業遺産のモニタリングと評価」）韓国済州島 1 月 7 日
- 金沢大学角間里山ゼミ第 2 期修了記念ワークショップ（後援） 金沢市 1 月 30 日
- 金沢大学「能登里山里海マイスター」育成プログラム「修了生フォローアップ・プログラム」（コメンテーター：飯田） 輪島市 1 月 31 日

#### 2 月

- 第 2 回 GIAHS 専門家会議（オブザーバー参加：飯田） 千代田区 2 月 4 日
- 能登キャンパス構想推進協議会 国際化推進事業 国際ジョイント・ワークショップ『能登 GIAHS の持続的発展に向けて：伝統祭礼、工芸、アートの役割』（講演：飯田「International Initiatives and Biocultural Diversity: Inclusive Activities of UNU-IAS OUIK 2014-2016 国際イニシアティブと生物文化多様性：国連大学 OUIK の包括的活動（2014-2016）」） 輪島市 2 月 7 日
- 平成 27 年度ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業「里山里海の恵みを活かした仕事づくり」最終発表会 県立七尾高校（審査員：永井、飯田）七尾市 2 月 9 日
- 第 3 回プラチナ大賞受賞記念シンポジウム（パネリスト：永井） 珠洲市 2 月 20 日
- 平成 27 年度日本ユネスコ国内委員会フェローシップ事業（視察受入）金沢市 2 月 27 日

### 3月

- 「世界農業遺産の思想と実践に学ぶ」シンポジウム（講演：ユー「日本の世界農業遺産の意義とその活用」）徳島県徳島市 3月11日
- 平成27年度こまつ里山学会（審査員：永井） 小松市 3月12日
- 第4回ユネスコエコパーク世界大会 山岳ワークショップ（講演：飯田「Participatory conservation activities involving local stakeholders and international network in Mt. Hakusan Biosphere Reserve, Japan」）3月15日、サイドイベント「Synergies between Multidesignations in Biosphere Reserves」（講演：飯田「Possibility of synergy between GIAHS and Biosphere Reserves for generating biocultural diversity」）3月16日 ペルー・リマ
- 第28回ユネスコ MAB 計画国際調整理事会（オブザーバー参加：飯田）ペルー・リマ 3月18日-19日
- エコストーブワークショップ（発表：ユー「日本の持続可能な農林水産業」）東京都 3月26日

### 4月

- 近藤哲生 UNDP 駐日代表との座談会（開催） 金沢市 4月1日
- 金沢市 春のエコツーリズム「自然史資料館見学とギフチョウが舞うカタクリ観察バスツアー」 金沢市 4月11日

### 5月

- 白山ユネスコエコパーク拡張登録記念イベント（共催） 白山市 5月10日
- OUIK ブックレット#2 刊行記念イベント「世界ネットワークを通じた学びあいと生物文化多様性の保全—ユネスコエコパークの事例から考える—」（開催） 渋谷区 5月11日
- 日本地球惑星連合大会 2016（発表：飯田「Linking locals to the global network-From the discussions at the UNESCO Global Geoparks Celebration Forum-」）千葉市 5月22日
- 世界農業遺産「能登の里山里海」認定5周年記念シンポジウム（開催） 七尾市 5月23日

### 6月

- 全国アマモサミット 2016 in 備前 「備前発！里海・里山ブランドの創生～地域と世代をつなげて～」（「能登の里海ムーブメント」活動紹介パネル展示：ユー）岡山県備前市 6月3日-5日
- MISIA の里山ミュージアム（運営支援） 津幡町 6月11日
- 第3回東アジア農業遺産学会（ERAHS）（講演：武内和彦「GIAHS 武内和彦「会（活動紹介パネル展示：ユー）世代をつなげて～」（k-From the discussions at）」）韓国錦山市 6月13日
- 第3回東アジア農業遺産学会（ERAHS）（発表：ユー「Monitoring And Evaluation Method for Biodiversity Conservation and Sustainable Use through Multi-stakeholders Governance」、ポスターセッション「能登の里海ムーブメント」）韓国錦山市 6月15日
- 宝達山水源の森づくり協会講演会（講演：飯田「森川里海のつながりと源流の森づくり—世界農業遺産・宝達山から考える—」）宝達志水町 6月29日

### 7月

- 第4回「能登の里海」シリーズ講座「羽咋の里海ブルーツーリズム～里海的环境保全と生業を学ぶ体験型観光の展開～」（開催） 羽咋市 7月9日
- 台湾政治大学研究者訪問（表敬受入） 金沢市 7月12日
- 金沢大学・国連大学連携プログラム 持続可能な開発目標を学ぶ金沢フィールドツアー（実施支援） 金沢市 7月11日-14日
- 国連持続可能な開発目標に向けた青年キャパシティ・ビルディング・ワークショップ（参加） 金沢市 7月15日
- 平成28年度京都大学「流域・沿岸域統合管理学」（リレー講義：飯田「International and local dialogues on the linkage between nature and culture.: A case of biocultural diversity approach in Ishikawa and Kanazawa」） 京都市 7月20日
- 金沢大学留学生センター「地域体験型学習の開発に向けた留学生ワークショップ」（開催） 金沢市 7月22日

- 第4回日本ユネスコエコパーク大会「生物文化多様性保全に向けた多様な主体の参画：アジアのユネスコエコパーク」（開催・平成28年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業） 7月25日-26日
- 金沢市-OUIK 連携生物文化多様性に関する意見交換会（講演：パストール・イヴァールス「金沢再生・世界的潮流に対応するスマートな都市縮小計画」） 金沢市 7月27日
- 小松サマースクールフォーラム（講演：永井「人間多様性」）小松市 7月29日

## 8月

- いしかわ環境フェア2016（出展） 金沢市 8月27-28日
- 石川県若手林業職員やまびこ研修会（講演：飯田「白山麓の林野利用の歴史」） 8月27日
- 平成28年度金沢大学理工研究域環境技術国際コース 環境技術地域研修（講義：飯田「Snow and cultural landscape in Shogawa river watershed and Mt Hakusan」）砺波市 8月30日
- 国連大学本部訪問学習（講演：ユ一「持続可能な農林水産業の研究」）東京都 8月31日

## 9月

- 日本水産学会秋の大会（発表：ユ一「沿岸漁業者の兼業実態とその動機に関する研究」）近畿大学、奈良県奈良市 9月10日
- ユネスコ創造都市ネットワーク会議／学術会議 VEC（Valuing and Evaluating Creativity）Conference（セッション主催、発表：永井「（共同発表）Ishikawa-Kanazawa Biocultural Region: A Local Platform of Different Sectors and an Academic Network Fostering Creativity」、飯田「Evaluation of the Role of Traditional Small Businesses on Creating Cultural Food Diversity in Kanazawa, Japan」「Geographical Visualization Biocultural Diversity in Kanazawa」「（共同発表）Education for the Creative Cities: Raising Awareness on Urban Challenges through Fieldwork Activities for International Students」）スウェーデン、エステルスンド市 9月12日
- 第5回「能登の里海」シリーズ講座 「里山と里海をつなぐ仲人～能登町の暮らしを支える里川～」（開催）能登町 9月17日
- 筑波大学 世界遺産シンポジウム 「自然と文化をつなぐアジア太平洋地域における自然と文化の連携に関する人材育成ワークショップ記念シンポジウム（第1回 農業景観を中心に）」（参加）つくば市 9月18-19日
- ABE Initiative 留学生とのSDGsワークショップ（開催） 金沢市 9月21日
- 筑波大学大学院自然保護寄附講座ワークショップ（講演：飯田「A journey to Satoyama and Satoumi in Noto GIAHS from Mount Hakusan Biosphere Reserve」）つくば市 9月22日

## 10月

- 国連大学 GEOC 20周年記念シンポジウム（パネリスト：永井）渋谷区 10月12日
- 石川の農林漁業まつり（出展） 金沢市 10月15-16日
- アジアのユネスコエコパーク現地実務者対象現地研修会「地域の人々のユネスコエコパークへの参画」（開催・平成28年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業） 郡上市、高山市、白川村、南砺市 10月23日-29日
- ユネスコ ADG シュレーゲル氏の白山ユネスコエコパーク視察（支援） 白山市、勝山市、大野市、郡上市、高山市、白川村、南砺市 10月22日-26日
- 第1回アジア生物文化多様性国際会議（開催） 七尾市 10月27日-29日

## 11月

- 大学改革シンポジウム（講演：渡辺「里山里海イニシアティブと能登半島」）七尾市 11月4日
- 第26回全国産業教育フェア石川大会世界農業遺産シンポジウム「全国高校生里山里海サミット」（パネリスト：永井）金沢市 11月5日  
世界農業遺産「能登の里山里海」ラオス及びミャンマー政府関係職員研修（講演：飯田「An overview of Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS)」、ユ一「Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS)」）金沢市 11月14日-17日

- 平成 28 年度 日本造園学会中部支部大会（発表：パストール・イヴァールス「金沢市伝統的建造物群保存地区（卯辰山麓・東山ひがし）における都市景観の変化」）、飯田「金沢市ホテル調査の実施体制とその社会的意義」） 金沢市 11 月 20 日
- トビタテ！留学 JAPAN 同窓会・知の見取り図サロン（講演：永井「石川県における生物文化多様性の意義」）金沢市 11 月 20 日
- 「能登ファンクラブ 500 kmをつなぐ食と農」パネルディスカッション「離れて気づく“能登の味”」 in 東京国際フォーラム（コーディネーター：ユ一）東京都 11 月 23 日

## 12 月

- 第 10 回生物多様性協働フォーラム（OUIK 活動紹介パネル展示） 大阪市 12 月 4 日
- 生物多様性条約第 13 回締約国会議サイドイベント「Strategic Action for Mainstreaming Biodiversity: Contributions of the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI) to Biodiversity and Human Well-Being」（発表：ユ一「Monitoring and Evaluation Method for Biodiversity Conservation and Sustainable Use Activities」）メキシコ・カンクン 12 月 6 日
- 生物多様性条約第 13 回締約国会議サイドイベント「Muchtanbal サミット」（講演：渡辺「1st Asian Conference on Biocultural Diversity」、永井「Experience based learning and educational tourism as outcomes of 1st Asian Conference on Biocultural Diversity」、参加：飯田）メキシコ・カンクン 12 月 10 日

## ○その他連携活動

- 世界農業遺産活用実行委員会、能登地域 GIAHS 推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会、白山手取川ジオパーク推進協議会、KOMATSU JAPAN 未来会議、東アジア農業遺産学会（ERAHS）への参画を通じ持続可能な地域づくりに貢献

## ○研究・活動プロジェクト（外部資金）

- 平成 28 年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金「ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画における実務者交流を促進するアジア型研修プラットフォームの創出事業」（機関名：白山ユネスコエコパーク協議会）OUIK が事業分担機関として参画
- 環境省推進費 S-15（PANCES）「社会・生態システムの統合化による自然資本・生態系サービスの予測評価」（代表：武内和彦）飯田研究員が共同研究者として参加
- 平成 28 年度金沢大学 COC 事業地域志向教育研究費「留学生のための地域交流型体験カリキュラムの開発」（代表：Aida Mammadova）飯田研究員が共同研究者として参加

発行年月日 2017 年 1 月 1 日

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館 3 階

United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability

Operating Unit Ishikawa/Kanazawa (UNU-IAS OUIK)

Shiinoki Cultural Complex Ishikawa Prefecture 3F, 2-1-1 Hirosaka, Kanazawa, Ishikawa, JAPAN 920-0962

Tel: +81-76-224-2266 Fax: +81-76-224-2271

Email: unu-iasouik@unu.edu

URL: www.ouik.unu.edu

Find us on Facebook! <https://www.facebook.com/OUIK.UNU.IAS>